



編集雑記

既刊案内 (特集・主要記事)

[8月号]

◎シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.21 東京大学大学院工学系研究科附属 水環境制御研究センター准教授 栗栖太氏を訪ねて 微生物生態系の研究から始まり、水中有機物解明により環境制御に役立てる技術をめざす…水道ネットワーク通信 有村源介 ◎沖縄水道訪問記 ～県企業局主催の講演会と施設見学～…北海学園大学工学部 社会環境工学科 教授 余湖典昭 ◎働き方改革とCO2削減等の両立を応援する取組を開始します…環境省 ◎平成30年度 建設投資見通し…国土交通省 ◎建築物リフォーム・リニューアル調査報告(概要)(平成29年度下半期受注分、平成29年度計、特別集計)…国土交通省 ◎新しいエネルギー基本計画が閣議決定されました…経済産業省 ◎夏の思い出はダムとともに～ダムを見に行こう 夏号2018リリース～…国土交通省 ◎環境経済観測調査(環境短観)平成30年6月調査速報値の公表について…環境省 ◎明日への道標 学問は事をなす術なり～福沢諭吉 実業のすゝめ～(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎東京プラリルポ 防衛省の市ヶ谷記念館を見学…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎ゼネコンにおける土木・建築工事完工高(2017年下期調査)…配管システム研究会 ◎「見てきたような話」水着審査なしのミスコン…低空飛行機 ◎新・撮った写真が5万枚!? ◎IDE研究所 いでこうじ ◎トピックス トイレブース工事で特別研修…(株)岡本 ◎[LaCoon] 新提案 TOTO便器とセット販売…コマニー(株) 特別連載 ウィーン旅の赤恥 笑辞典(第2回)…弁護士 野平大魚 ◎建築着工統計(2018年5月)…国土交通省 ◎新製品紹介 ◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子

[9月号]

◎シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.22 山形大学農学部 食料生命環境学科 教授 渡部 徹氏を訪ねて 農学と環境工学の学際的領域で社会貢献～下水道資源の農業利用、ノロウィルス・フリーの牡蠣等々…水道ネットワーク通信 有村源介 ◎メーター検針・料金徴収のトップカンパニー第一環境(株)新社長・新副社長に聞く(下) 副社長に就任した松本 太郎氏…水道ネットワーク通信 有村源介 ◎スマートシティのモデル都市の構築を進めます～「スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】」の策定…国土交通省 ◎インフラメンテナンスの着実な実施に向け、緊急的に取り組む施策をとりまとめました!…国土交通省 ◎主要都市の地価は95%の地区で上昇基調～平成30年第2四半期の地価LOOKレポートの結果…国土交通省 ◎熊本地震の教訓を踏まえ、復旧時、通常時に取組むべき宅地耐震化ガイドラインを初めて提示～全国の宅地耐震化の強力な推進に向けて…国土交通省 ◎ESG金融懇談会からの提言について…経済産業省 ◎平成29年度「技能検定」の実施状況を公表します…厚生労働省 ◎平成29年度末の汚水処理人口普及状況について…環境省 ◎明日への道標 印象派を支えた共犯者～面商 ポール・デュラン=リュエル～…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎東京プラリルポ 芭蕉会館から深川神明宮例大祭へ…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎「見てきたような話」VIOの処理…低空飛行機 ◎特別連載 ウィーン旅の赤恥 笑辞典(第3回)…弁護士 野平大魚 ◎国土交通省 大臣官房官庁営繕部監修 工事写真撮影ガイドブック刊行 ◎新・撮った写真が5万枚!? ◎IDE研究所 いでこうじ ◎建築着工統計(2018年6月)…国土交通省 ◎新製品紹介 ◎ニュースファックス ◎エッセイ 西村修一、新田純子

味覚の秋で連想する果物として柿は欠かせない。俳句で有名な「柿食べば 鐘が鳴るなり 法隆寺」を詠んだ正岡子規も無類の柿好きだった。学生時代からの友人である夏目漱石は小説『三四郎』で「子規は果物が大変好きだった。かついくらでも食える男だった。ある時大きな樽柿を十六食った事がある」と水蜜桃を食べる場面で回想している。

肺結核を病む身で日清戦争の従軍記者となった子規は帰路の船で咯血し、愛媛の松山に帰郷した。旧制松山中学の英語教師をしていた漱石の下宿・愚陀仏庵に転がり込み、52日間の居候生活を送る。愚陀仏は漱石の俳号で子規から俳句の手ほどきを受けた。体調が一時回復し、上京する途中で念願の奈良を訪れ、後世に残る柿の句が誕生した。

はじめての奈良の旅は生涯最後の旅となった。旅費は漱石から借りて一流の老舗旅館に宿泊する。夕食後に地元名産の御所柿を美少女の仲居に皮を剥いてもらって食べていると東大寺の鐘が鳴った。実際は法隆寺ではなく、このときの体験が創作のモチーフになったという推察にわたしは文学的な香りを感じる。柿と鐘と法隆寺で秋の抒情を際立たせた一句は漱石が2カ月前に海南新聞に発表した「鐘つけば 銀杏散るなり 建長寺」への返句または漱石への感謝の句ともいわれている。

上京後、子規の病状は悪化し、漱石のロンドン留学中に35歳で夭折した。亡くなる前年に「柿食うも 今年ばかりと 思いけり」と書き残した。大食漢だった子規にとって柿は友情の証であると同時に生きている証でもあった。(高倉)

給排水・衛生・環境設備の総合誌
月刊「コア」第347号

平成30年10月1日発行 定価1,000円(本体926円)
発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13
(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社
TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884